

今週のフレーズ&ワード

brace oneself for

～～に対して備える、準備をする～

人材論・組織論の世界的権威で『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』の著者リンダ・グラットン氏と、先般 Zoom で話をしました。彼女はコロナ禍の教訓として、予期せぬ出来事への備え、つまり貯金、健康、友人など嵐を乗り越えるための抵抗力 (resilience) の重要性を語りました。

What COVID has taught us is we should **brace ourselves for** unexpected events.
 コロナ禍の教訓は、予期せぬ出来事に対して備えておくべきだということです。

brace oneself for ～は「～に対して備える、準備をする」というフレーズです。brace (名詞) は「補強材、留め金具」という意味で (歯列矯正で歯につける器具は braces)、動詞では「(困難などに耐える) 準備をする」。何か悪いこと、大変なことが起こりそうなときに使われます。brace oneself for ～で、自分自身が備える、心の準備をするという意味になります。

次の例文では、「いざというときの備え」という意味で brace oneself が使われています。生きていくためにはある程度の貯金 (有形資産 tangible assets) が必要だが、先行きが不透明な時代こそ、健康や友人 (無形資産 intangible assets) が大切だというのがグラットン氏の主張です。

Intangible assets such as health and strong personal relationships
 are important to **brace ourselves for** tough times.
 健康や個人の強いつながりといった無形資産は、厳しいときへの備えとして重要です。

次の用法は、be braced for で「備えている」状態を表し、brace oneself for ～と同じように使えます。

Financial markets **were braced for** the outcome of last-ditch talks
 to strike a post-Brexit trade deal.
 金融市場は、ブレグジット後の貿易協定を結ぶための最後の交渉の結果に備えていました。

どちらに転ぶかわからないけれど大きな変化が起こりうる事態を、固唾をのんで待っている感じですね。

last-ditch は「最後の溝」→「瀬戸際の、最後の、死力を尽くしての」。英国と EU の貿易協定は 2020 年のクリスマス直前に成立し、11th-hour deal、last-minute deal (期限ぎりぎりの協定) などと呼ばれました。

単語・熟語チェック

intangible assets 無形資産 strike a deal 取引きをまとめる、合意する
 last-ditch 瀬戸際の、最後の、死力を尽くしての outcome 結果、結末